

波の一つ

全てが正に振れる世界の中で  
無邪気さも溢れすぎて  
それを止めることができなくて  
あなたは波を掬いに行った

最初の一掴みは最善の値で  
私たちはうなぎ合った  
けれども二つ目の波は  
限界を少し超えていた

あなたは消えてしまった  
波が奪ってしまった

同じ波は来ない  
私は生きてしまう  
あなたのない世界も  
ほとんど姿を変えはしない  
ただあなたがいない  
残酷なほどにあなただけがいない

波は繰り返す  
飽きることなく繰り返す  
当然だ  
波は常に新しいから

そして  
そんな理屈では生きていけない

清水らくは

# 無 責 任

波の一つを殺すために  
全ての波を呪った  
波はただ一つ一つが生まれて消える  
呪いが効いたのかもわからない  
消える波を見続けているうちに  
思い出してしまった

一つ目の波は幸せだった  
ぐちゃぐちゃの気持ちで  
むちゃくちゃに走って  
波の真ん中目指して  
波立てて

全てが負に振れる世界の中で  
無気力の向こう側  
そこに留まることもできなくて  
私は波になって  
そう  
波になって  
誰かを掬いに行く  
私を救いに行く

# 五 十 三 号

湖のさざ波うつろな水中花  
泣くなお前 いま殺してやる

浮島

無責任 五十三号  
責任者 清水らくは  
副責任者 浮島  
発行 無責任 zone  
発行日 二〇一六年七月一日  
<http://borderspoem.seesaa.net/>